

還暦を迎えた木村さんが区間新記録達成

第4回吉川区駅伝大会、感動のドラマ次々

スポーツにおける感動のドラマは世界や全国大会レベルの競技だけのものではありません。小さな町の競技でもある。16日の吉川区の駅伝大会、旧吉川町時代から通算で44回目となる大会でしたが、いくつものドラマがあり、選手や役員、応援の人たちの胸を打ちました。

そのひとつは、還暦を迎えた選手が区間新記録を達成したことです。第6区、旭ランナーズの補欠選手だった木村富士男さんが急ぎよ出場することとなり、1・8キロを6分26秒で駆け抜けました。これまでの区間最高記録は6分34秒でしたから、木村さんはそれを8秒上回る記録で走ったことになりました。表彰式で司会の方が、「これは区間新記録です」と伝えると会場ではどよめきが起きました。毎日、こつこつと走り続けている木村さんの快走はスポーツ愛好者ばかりでなく、中高年を励ますものとなりました。

最終区の第9区でもドラマが待っていました。骨太(チーム名)のランナーは11歳の吉藤皇子さん、中継所でタスキを引き継ぐとまもなく、数メートル先を走っていたトップの選手



写真上はオーストラリアからやっきた娘婿のグレッグ・ピアーさんにタスキを渡す木村富士男さん。写真下は、9区の吉藤皇子さんと長谷川徳夫さん。

を抜き去りました。抜かれた選手は旭ランナーズの選手、長谷川徳夫さん(61歳)です。ところが、抜かれてから長谷川さんは驚異の粘りを見せ、20メートルくらい差を維持しながらグラウンド勝負にかけます。ゴールのある旧旭小学校のグラウンドでは、小雨が降るなか懸命に追いかける長谷川さんと抜かれまいとスタートする吉藤さんに大きな拍手が送られました。年齢差50歳の対決、吉藤さんの勝利に終わりましたが、吉川区の駅伝の歴史に残る名勝負となりました。ちなみに、吉藤さんは区間第1位、長谷川さんは区間第3位でした。

きょうの大会で優勝したのは骨太チーム、タイムは1時間10分47秒でした。区間新記録は6区の木村富士男さんが記録。区間タイ記録は8区の佐藤惇さんの4分38秒でした。

株よしかわ杜氏の郷、

来年一月から「暫定政権」

株よしかわ杜氏の郷の再建問題で市は18日、JA、会社とのこれまでの3者協議の到達点について文教経済常任委員会に報告し、意見を聞きました。

私たち党議員団が注目してきたことがいくつもあります。これまでの会社の経営陣の責任分として増資する額はどれくらいになり、そのなかで各役員の増資割合はどうなるか。最大の株主であるJAえちご上越が増資に応じるかどうか。新経営陣がいつからスタートし、どんな体制になっていくのか。新たに参画を求めるとしていた民間企業はどこか、などです。

3者協議のなかで会社への増資は、金融機関から求められる予想損失補償額相当分、1億2200万円を市が出す。現経営陣は役員が会社へ貸し出した金額プラスアルファ2100万円を経営者責任分として出資する。JAは増資はしないが、会社が軌道に乗るまで当分の間、職員派遣を続けることになりました。会社経営陣の増資額は妥当かどうか、役員の出資割合はどうかという質問には、「役員の中にはすでに現役を退かれている人が多い。そのなかで出ていく(数字だ)。出資割合が確定しているかどうかは感知しているところではない。役員さんたちの話し合いの中で精いっぱい出せるところを出されてきた」と市側は答えました。

会社経営陣は一時も早く交替し、そのなかで再建策を：今回もそうした発言が委員の中から出ました。株主総会など所定の手続きが必要ですので一定の時間がかかります。市側は次のようなスケジュールを示しました。12月の段階で臨時株主総会を開催し、1月から「暫定政権」(市担当部長)についてもらい、コンサルタントと成功報酬的な契約を結んで新しいやり方をやってみる、次期(来年7月1日から)から新たな経営陣のもとで新事業計画を本格的にスタートさせる、というものです。注目の新たなスポンサー企業名は、現段階では名前は明らかにされませんでした。

市はこの日、12月議会に増資を含んだ一般会計補正予算を提出することを明らかにしました。市では、22日と24日、吉川区内7か所で市民説明会を設け、十分な説明のうえ理解を求めていくということです。地域協議会への諮問をどうするかですが、遅くとも議会開会日まで諮問し答申を得ることになると思っていたら、諮問しないで上程していく方針だという答弁がされました。これには啞然としました。



NO 1372
2008.11.23

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪法一
TEL 548-3628 (有線) 4867
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL http://www.hose1.jp/